

金御木具

初獻 ござし龜甲 御ざうに 御手鹽 けづりもの

二獻 くらげ かいもり 御すい物 からすみ

三獻 壹つ物 鮎

七の御膳の次第

御本膳 玄ほびき ふくめ 御やき物 あへませ 御湯漬 たこ おけ はし

御二 おんちん かまぼこ 御汁鯛 さめ くらげ 御玄るあつめ

御三 はむ やき鳥 かいもり すし かぞう 御汁鶴ごぼう

御與 まきすみめ さかびて 御汁

御五 地紙壽盛 いか うろこ 魚桶三ツ かざみ くもたこ きすご 御汁くゞひ

御六 すいま さゝい はい はまぐり 玄いたけ 御汁鯉

御七 ふなもり にし はもり 御汁鮎一こんに

御かはらけ物三つすへ

一ふの小ぐし 一うづら羽もり 一のし

兩御所様 一うづら羽もり 一ふの小ぐし 御菓子 かき あるへい かやざくろ のし

右は初日の供御なり、後日は七五三の供御なり、いろくゝ玄なぐゝの御獻立どもあり、

〔奉公覺悟之事〕一御膳之事、八のせん公方さま一御まへ御參候事候、此時も御玄やうばんは三まで也、さいの候はぬは膳とは云まじき也、すへ可申やうの事、